



第九のクライマックス「ドッペルフーガ」-その2-

さて、それではこの部分を歌う場合に気をつけるべきことですが、まず二つの主題を違いをはっきりと出すことが重要になります。アルトとテナーによって始まる「口付けの主題」は決然と、力強く。弱弱しくなってはいけません。しっかりと歌ってください。

一方、ソプラノとバスによって始まる「喜びの歌」は楽しそうに、決して重くならないように歌う必要があります。そこで、具体的な注意点を解説します。

【4分音符は軽く】

二分音符と四分音符によって構成されるこのリズムは、四分音符を軽く歌うことで、飛び跳ねるような、楽しい感じが出ます。このリズムを言葉で表現すると、「プール」あるいは「カーブ」です。「**プ**ール」、「**カ**ーブ」（太字はアクセントです）のように最初を強く、決して「**カ**ーブ」とならないよう気をつけてください。

【er の発音に注意】

四分音符を軽く歌うために、er 発音に注意してください。

schöner, Götter, Tochter, feuer の4つ。いずれも er は四部音符です。みなさんの楽譜では、この発音は schöner=シェーネる、Götter=ゲッテる、Tochter=トホテる、feuer=フオイエるとひらがなの「る」が付けられています。四分音符の分だけ見ると、それぞれネる、テる、テる、エるという具合ですね。これを歌うとき「る」をあまりはっきり発音してしまうと、ひとつの短い音符に二つの文字を発音することで、どうしても強くなってしまいます。或いは強く聞こえてしまいます。そこで、この「る」の発音をできるだけ弱くしてください。lesson1 を参考に。或いは、いっそ「る」を発音しないで、schöner=シェーナー、Götter=ゲッター、Tochter=トホター、feuer=フオイアーという具合に口語調の発音にすると、軽く歌いやすくなります。